

令和 7 年度 歴史総合＋世界史探究 (05コア・02プラス)

試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、間違いのないように受験してください。

1. 試験開始の合図があるまで冊子を開かないでください。
2. この冊子には問題18ページ、マークによる解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ 、記述による解答用紙 $\boxed{\text{記述}}$ 各1枚がセットになっています。
3. 試験開始の合図があったら、問題のページ数を確認し、解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ ・ $\boxed{\text{記述}}$ をミシン目で折ってから冊子よりていねいに切り離し、すべての解答用紙に受験番号を記入してください。解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ の受験番号欄は、右を参考に記入してください。
4. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
5. 解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ はすべてHBの黒鉛筆(シャープペンシル可)で記入することになっています。答えを訂正する場合は、プラスチック消しゴムでよく消して、訂正してください。プラスチック消しゴムを忘れた人には貸与します。
6. 解答用紙 $\boxed{\text{記述}}$ は、HB以外の黒鉛筆(シャープペンシル可)や黒・青の万年筆またはボールペンを使用してもかまいません。
7. 文字ははっきり、ていねいに書いてください。
8. 解答用紙の点数欄には何も記入しないでください。
9. 複数の解答用紙がある場合、使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。
10. 「歴史総合＋世界史探究」のコア試験の配点は100点、プラス試験の配点は120点です。プラス試験の受験生の得点は、コア試験とプラス試験の配点比率に応じた調整を行います。
なお、各問題には、コア試験の配点のみ記載します。

例 受験番号が
0637のとき

受験番号					
千位	百位	十位	一位		
0	6	3	7		
0	●	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	●	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	●	6	6	6
7	7	7	7	●	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9



良い例	悪い例

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。

受験番号					
	千位	百位	十位	一位	
0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9

I A

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④
(10)	①	②	③	④

II A

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④
(10)	①	②	③	④

III

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④
(10)	①	②	③	④
(11)	①	②	③	④
(12)	①	②	③	④

I B

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④
(10)	①	②	③	④

II B

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④
(10)	①	②	③	④

本欄は記入しないこと。

十位	一位
0	0
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9



総 点	
--------	--

IV

	A (誤)	B (正)		設問
1			(1)	(5字)
2			(2)	
3			(3)	
4			(4)	
5			(5)	
6			(6)	

評 点	
--------	--

V

(1)		(7)		(9字)
(2)		(8)		交渉
(3)		(9)		
(4)		(10)		
(5)		(11)		(5字)
(6)		(12)		

評 点	
--------	--

令和7年度 入試問題訂正票

法・経済・文・理・国際社会科学部 コア試験
法・経済・文・理・国際社会科学部 プラス試験

科目 歴史総合+世界史探究 の試験問題について、訂正があります。

記

3 ページ 3 行目	
誤	正
8 <u>C</u> 前半	8 <u>世紀</u> 前半

以 上

問題は次のページより始まります。

- I 次のA・Bの文章を読み、それぞれ(1)～(10)の設問について〔 〕内の語句から最も適切と思われるものを選び、その記号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙マ-7〕 (20点)

A その著書『方法序説』中の「われ思う、ゆえにわれあり」という言葉でよく知られる(1)〔①プラトン ②キケロ ③デカルト ④ヒューム〕は近代哲学の父とされる。『方法序説』のなかで(1)は、合理主義的な思考法を説く。合理主義では、理性が認識の基準となり、理性で確認できることのみを真実として世界を把握し、秩序と調和が重んじられた。その影響は、芸術においては調和と形式美を重んじる(2)〔①古典主義 ②多文化主義 ③ダダイズム ④リアリズム〕にも及んだ。その後、理性という光で従来の慣習や制度、社会の問題点を批判していった懐疑的態度を啓蒙思想という。その中で、人権が発明、発見されていったといえよう。

人権は人類史上の最も偉大な発明もしくは発見であるが、その考え方は古代から主張されていたとも言われる。人権は人が生まれながらに持っているとするべき権利であり、性、貧富、身分、社会的地位、階級、民族、人種、宗教等の差別なく持っているとするべきものである。人権はヨーロッパの絶対王政への抵抗の中で明確化されていった。例えば、17世紀イギリスで(3)〔①リチャード1世 ②ジェームズ2世 ③ウィリアム3世 ④ジョン王〕の強権政治に反発した議会による名誉革命に端を発した1689年の権利の章典はその明確化の一例であろう。同年に制定された(4)〔①ローマ法 ②ローラット法 ③自然法 ④寛容法〕はカトリック以外の非国教徒に信仰の自由を許した。その名誉革命に際し、亡命先から帰国して『統治二論』を刊行し、(5)〔①イデア論 ②王権神授説 ③社会契約説 ④社会主義〕に基づいて名誉革命に理論的根拠を与えたのがロックである。(5)とは、不安定な自然状態が、個人同士の平等で自由な取り決めによって政府が作られ安定するという考え方である。その自然状態では本来的に人間は平等だが、私的財産の所有が不平等を発生させたと説いたのが『人間不平等起源論』を刊行した(6)〔①アダム＝スミス ②カント ③ルソー ④ニーチェ〕である。ロックと(6)は、アメリカ独立革命や、フランス革命にも大きく影響を与えた。

そのフランス革命の理念を表すのが、アメリカ独立戦争時には海を渡って義勇兵として参戦した(7)〔①ミラボー ②トマス＝ペイン ③ラ＝ファイエット ④ナポレオン＝ボナパルト〕が中心となり、後にアメリカの第3代大統領となった(8)〔①ワシントン ②トマス＝ジェファソン ③フランクリン ④リンカン〕からの助言も受けて起草した人権宣言である。しかし、人権宣言には女性の権利が書かれていなかった。そのことを指摘したのが、『女性の権利宣言』を刊行し、女性にも男性にも同じ権利があることを主張した(9)〔①ジャンヌ＝ダルク ②オランプ＝ド＝ゲージュ ③マリ＝アントワネット ④レヴィ＝ストロース〕である。(9)は商工業ブルジョワジーを中心とする穏健共和派であるジロンド派に近く、ルイ16世の処刑に反対したため、ロベスピエールの遂行した恐怖政治の中、逮捕され、断頭台で処刑された。その(9)はフェミニズムの先駆者とされる。

合理主義は人権の理念を追求したが、当初、人権の主体は男性しか想定されていなかったのである。その状況が改善されはじめるのは20世紀になってからであった。イギリスでは19世紀後半から、パンクハーストラ、(10)〔①サファヴィー ②メンシェビキ ③サフラジェット ④ポピュリスト〕と言われる活動家によって展開された女性参政権獲得運動により1918年に第4回選挙法改正で女性参政権が認められた。また、世界的には1979年に国連で女性差別撤廃条約が採択され日本も1985年に批准する。更に1999年には国連でその条約の実効性を強化し一人ひとりの女性が抱える問題を解決するため、改めて女性差別撤廃条約選択議定書が採択されるが、21世紀になって4半世紀が過ぎようとしている今も日本はそれを批准していない。

B イベリア半島の歴史では、イスラーム教徒がこの地に (1)〔①ヴァンダル王国 ②ファーティマ朝 ③西ゴート王国 ④後ウマイヤ朝〕を建てた8世紀半ば頃より少し以前の、8C前半の戦いにおけるイスラーム教徒に対するキリスト教徒の勝利から、15世紀末頃までの長期にわたり (2)〔①ヴ＝ナロード ②東方植民 ③レコンキスタ ④ホロコースト〕と呼ばれる国土回復運動が展開したとされてきた。とはいえ、(2)という語は中世に用いられていた用語ではなく、当時の人々が、イスラーム勢力から国土を回復しようという理念をどれだけ共有していたかを判断するのは難しい。しかし、9世紀頃に、北西部のガリシアで聖ヤコブのものとされる墓が「発見」されたという伝承の存在は、当時のこの地の人々がキリスト教世界の一員としての自意識を主張しようとした面があるという見解もある。この「発見」の地である (3)〔①カンタベリ ②シャルトル ③ランス ④サンティアゴ＝デ＝コンポステーラ〕は、中世からイベリア半島を代表する巡礼地として栄え、途中の巡礼路に位置する都市も経済力を増し、聖ヤコブはイベリア半島におけるキリスト教文化の重要な要素を構成することになる。

キリスト教徒の国土回復運動は徐々に進行していくが、そのことはイスラーム教徒の放逐を必ずしも意味するわけではなかった。例えば、(4)〔①トレド ②パレルモ ③サレルノ ④ギエンヌ〕は、のちの「12世紀ルネサンス」と呼ばれる文化運動における、イベリア半島での中心地として知られるが、この地を11世紀後半に再征服したキリスト教徒の王は、自身を「二宗教の皇帝」と称し、キリスト教徒とイスラーム教徒の両方の君主であると自認していた。

イベリア半島には多くのキリスト教王国が誕生するが、ポルトガルの他、中世後期に強力な力を獲得したのはカスティーリャ、アラゴンという二つの王国である。とはいえ、両国の個性は異なる。カスティーリャはアラゴンよりも大国であり、14世紀の前半頃には、カスティーリャは羊毛生産や毛織物業が盛んで、15世紀にはイングランドとの羊毛交易も活発で経済力を高めていく。一方アラゴンは、イベリア半島での領域拡大が難しいなか、中世を通じてイベリア半島以外での支配領域を拡大し連合王国となっていく。13世紀初頭に勃発した (5)〔①第1回 ②第2回 ③第3回 ④第4回〕十字軍の結果誕生した十字軍国家の一つにアテネ公国があるが、14世紀にはアラゴン連合王国出身者たちの勢力はこの遙か

遠い地域にある公国の篡奪にまで一時期成功し、彼らは分散した地中海帝国としてのネットワークを有していた。

14世紀半ばの黒死病の大流行ののち、この両国は様々な社会不安と危機に襲われる。そうしたなか両国の歴史における大きな転換点となるのが、15世紀中頃、それぞれの王国が抱える問題を意識して行われたカスティーリャ王女イサベルとアラゴンの王子(6)〔①ジョアン ②エンリケ ③フェルナンド ④マクシミリアン〕の結婚である。両者はその後それぞれの王国の王となり、教皇から「カトリック両王」との称号も与えられるが、婚姻協定によりお互いは相手国の共同統治王という立場であった。イサベルの死の段階で、両者の間には跡取りとなる息子はおらず、(6)はアラゴン王国の独自の存続のために再婚したが子は得られず、二つの王国は、イサベルと(6)の娘であり、ハプスブルク家に嫁いでいたファナが継承する。このファナの息子が、宗教改革の時代にカトリックの有力な支持者としてルターに対峙した神聖ローマ皇帝の(7)〔①カール4世 ②オットー1世 ③フェリペ2世 ④カール5世〕である。

カトリック両王の時代には、イベリア半島の歴史を考える上での重要な事件がいくつか含まれている。その一つは、国土回復運動の終了であり、この半島に残っていた最後のイスラーム王朝である(8)〔①ムワッヒド ②ブワイフ ③ムラービト ④ナスル〕朝を滅ぼし、(8)朝の首都であった(9)〔①コルドバ ②マドリッド ③リスボン ④グラナダ〕に両王が入城したことである。もう一つは、ユダヤ教徒追放令の公布である。異教徒を許容する政治文化の動揺を象徴する事件であった。さらに、イタリアの海洋共和国である(10)〔①フィレンツェ ②ボローニャ ③ジェノヴァ ④ナポリ〕出身のコロンブスの航海を支援したのも両王の時代である。(10)出身者は地中海の島々などでの覇権争いにおいて、似た個性を持つアラゴン連合王国出身者としばしば競合した。その一方、(10)はカスティーリャとは15世紀には同盟を結ぶなど中世を通じて友好的な時期は長かった。コロンブスが支援を獲得できた背景には、両王が(10)の海上勢力としての価値を理解していたという点もあったといえよう。

Ⅱ 次のA・Bの文章を読み、それぞれ(1)～(10)の設問について〔 〕内の語句から最も適切と思われるものを選び、その記号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙~~マ~~〇〕 (20点)

A 共和政ローマの最後の1世紀間、いわゆる「内乱の1世紀」の時代には、軍隊を率いて政治権力の獲得を目指して競い合う政治家たちが、しばしば出現した。このような政治家は、まず(1)〔①元老院 ②平民会 ③身分制議会 ④民会〕でのローマ市民の投票によってコンスルに選出され、コンスルとして軍隊を率いるか、1年間のコンスルの任期終了後に特定の地域や任務に関して権限を延長されて軍隊を率いていた。なお、共和政の最末期には、特別の立法によってコンスルと同等の権限を与えられて軍隊を率いる場合もあった。

このような政治家たちの先鞭をつけたのは、民衆派(ポプラレス)の政治家マリウスとそのライバルであった閥族派(オプティマテス)の(2)〔①グラックス ②スキピオ ③スラ ④ホルテンシウス〕であった。特に(2)は、自ら軍隊を率いて2回にわたってローマ市を攻撃したことが知られている。1回目は前88年に、(3)〔①シリア ②同盟市 ③ポエニ ④マケドニア〕戦争の最中、コンスルとして軍隊を率いていた(2)が、小アジアのポントス王(4)〔①エラトステネス ②スパルタクス ③ハンニバル ④ミトリダテス〕との戦争の指揮権を民衆派の護民官によって剥奪されたため、指揮下の軍隊と共にローマ市に進軍して攻略し、反対派を粛清した。さらに(2)は、(4)との戦争中に、ローマ市で選出されたコンスルと対立し、(4)との講和後、前83年に大軍を率いてイタリアに上陸し、約1年間の激しい内乱を経てローマ市を再び攻略し、反対派の大規模な粛清を断行した。

(2)の旧部下でもある(5)〔①キケロ ②ホラティウス ③ポンペイウス ④リウィウス〕は、前70年にコンスルを務めた後、前67年に地中海全域で猛威を奮っていたキリキアの海賊討伐の任務を約40日間で成し遂げ、前66～前65年には(4)との戦争を指揮して勝利し、さらに前64～前63年にはセレウコス朝を滅ぼしてシリアを属州とし、パレスチナにも進軍して(6)〔①ビザンティウム ②イェルサレム ③セレウキア ④クテシフォン〕を陥落させた。輝かしい功績を挙げた

(5) は、前62年にローマに帰還したが、(5) の功績は元老院多数派の疑惑を招き、当時兵士の退役の際に慣例となっていた農地の分配が、(5) 指揮下の軍隊から退役する兵士たちには認められなかった。その結果、(5) は、元老院多数派と仲違いすることとなった。

前60年に、(5) は、民衆派の元老院議員カエサルと富裕で知られる元老院議員(7)〔①クラッスス ②タキトゥス ③ブルートゥス ④プリニウス〕と手を結び、私的政治盟約である第1回三頭政治を結成した。この盟約の結果、カエサルは前59年のコンスルに選出され、(5) の退役兵への農地分配を実現した。コンスルの任期終了後の前58年から、カエサルは、属州ガリアの総督を務め、前後8年間の戦争で、数十の部族国家が分立していた現在のフランス・ベルギーとオランダ・ドイツの一部からなる広大な地域をローマの属州とした。この結果、カエサルの政治的地位は(5) と(7) に匹敵するものとなった。ところが、前54年に(5) の妻となっていたカエサルの娘が死去し、属州シリアの総督となっていた(7) が、前53年にメソポタミアに遠征して(8)〔①エフタル ②ササン朝 ③パルティア ④バクトリア〕軍に敗れて戦死した。さらに(5) が元老院多数派と和解してカエサルと対立することとなり、カエサルは政治的に追い詰められた。前49年、カエサルは軍を率いて、イタリアに侵入して内乱が開始された。この内乱は、カエサルが最終的に勝利した。内乱に勝利したカエサルは、前44年に終身の(9)〔①インペラトル ②護民官 ③コンスル ④ディクタトル〕になるなど独裁化を進めたため、前44年3月15日に共和主義者たちによって暗殺された。

カエサルの暗殺後、彼の遺言でカエサル家の相続人となったオクタウィアヌスとカエサルの旧部下のアントニウス、レピドゥスとが、第2回三頭政治を樹立した。この3人は、前42年にカエサルを暗殺した自称「解放者たち」を破り、ローマの諸属州を分割支配した。前36年には、レピドゥスが失脚して、オクタウィアヌスが西方の諸属州を、アントニウスが東方の属州を支配した。当初、この2人の中では、歳上で経験の豊かなアントニウスが優位に立っていたが、アントニウスがエジプトの女王クレオパトラとの関係などからローマ市民から非難されるようになってオクタウィアヌスの勢力が高まった。最終的に前31年の(10)〔①アクティウム ②カンネー ③ザマ ④ファルサルス〕の戦いでオクタウィアヌスが

勝利して、ローマの単独支配者となった。

B 671年、広東を出港し海路でインドへ渡った(1)〔①法顕 ②玄奘 ③鳩摩羅什 ④義浄〕はその著『南海寄帰内法伝』において、僧侶1000名を擁する一大仏教国が東南アジアに存在したことを伝えている。19世紀以来、サンスクリットの語彙を借りて記された古代マレー語碑文が東南アジア各地で発見されたことや、またフランスの東洋学者ジョルジュ＝セデスらの碑文研究などをつうじて、この国が、(2)〔①マジャパヒト ②シャイレンドラ ③マタラム ④シュリーヴィジャヤ〕であることが明らかにされた。現在、この国はインドネシア諸島のマレー人たちによって建てられた海洋交易国家であると考えられている。彼らはニクズクや丁字などの特産物を携え、1世紀頃から大陸部のメコンデルタに成立していた国家(3)〔①シンハラ ②扶南 ③ペグー ④チャンパー〕を訪れていたし、さらにはインドにまで直接交易を展開した。仏教の伝来はそうした活発な交易活動を背景としたものであった。

14世紀末、(4)〔①ジャワ ②カリマンタン ③スマトラ ④ニューギニア〕島のパレンバン出身で、(2)王国の末裔とされるパラメスワラは、多くのマレー人を引き連れ、マレー半島の(5)〔①オケオ ②プノンペン ③パガン ④マラッカ〕に新たに王国を建てた。この王国はマレー半島を南下し、勢力を拡大しつつあったタイの(6)〔①スコタイ ②ラタナコーシン ③アユタヤ ④コンバウン〕朝に対抗するために、中国に接近する政策をとった。とくに1405年、鄭和の船隊が東南アジアを訪れると、(5)は補給基地を提供するとともに、活発な交易活動を展開した。時の(7)〔①永楽帝 ②洪武帝 ③万暦帝 ④崇禎帝〕は(5)王を国王に封じたが、鄭和の船隊のような大型使節団の派遣がその後途絶えると、(5)は再び(6)の脅威にさらされるようになった。こうした対外的危機の高まりは(5)をイスラームに接近させ、(6)との戦いはイスラームの聖戦と位置づけられた。こうした(5)王国のイスラーム化は、多くのインド人やイスラーム商人を同国に呼び寄せ、香辛料の重要な中継港として発展する契機ともなった。しかし、1511年には、東南アジア進出をもくろむ(8)〔①イギリス ②フランス ③スペイン ④ポルトガル〕艦隊に占領され、(5)の王族はマレー半島南端のジョホールに逃れ、新たな王国を樹立せざるをえなくなった。

東南アジア島嶼部において、西欧の艦隊と対抗したのは、イスラーム化した港

市国家であった。(4) 島北端では、15世紀末になると、(9)〔①バンテン ②ペナン ③アチェ ④アンボイナ〕が台頭し、(4) 島の胡椒貿易を独占することで繁栄した。(9) はオスマン帝国に胡椒を提供する見返りに多くの武器を入手しては(8) と対抗し、(5) にしばしば攻撃を加えた。19世紀後半、オランダが(4) 島全土の植民地化を目指すと、(9) は、1873年以降、オランダへの抵抗を本格化させたが、それを支えたのはイスラーム諸学を修めた知識人(10)〔①カーディー ②スルタン ③ウラマー ④カリフ〕たちであった。(9) は「メッカのベランダ」と呼ばれ、アラビア出身の(10) が頻繁に訪れて現地の王権に重用され、かつ多くの(9) 出身のムスリムや(10) たちをメッカに送り込んだ。ことに蒸気船の就航はこうした人的移動を一層活性化させ、1880年代には年平均4600名ものメッカ巡礼者を生んでいたといわれる。(10) たちはジハードを唱え、農民をゲリラ隊に組織してオランダに抵抗し、1912年までその戦いは続いた。こうした抵抗の強靱さは海域を介して結ばれた東西イスラーム間のネットワークの存在によるともいえよう。

Ⅲ 次の文章を読み、(1)～(12)の設問について〔 〕内の語句から最も適切と思われるものを選び、その記号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙 ㊞㊟〕 (12点)

中国は、清朝末期に公使館や領事館などの在外公館を他国に設置するようになるが、その設置の経緯は、中国の世界観の転換とも絡みつつ複雑な展開をたどった。

1856年に勃発した清とイギリス・フランスとの間の (1) 〔①アヘン戦争 ②清仏戦争 ③第2次アヘン戦争 ④江華島事件〕 に関して結ばれた天津条約、そして (2) 〔①黄埔条約 ②南京条約 ③アイグン条約 ④北京条約〕 を通して、外国使節の北京常駐が認められるようになり、1861年には対外交渉のための官庁である総理各国事務衙門が設置された。かつて18世紀末にイギリスは (3) 〔①アマースト ②マカートニー ③ウォード ④ゴードン〕 を派遣して中国に自由貿易や外交使節の交換を求めたが、当時の清朝皇帝 (4) 〔①康熙帝 ②雍正帝 ③乾隆帝 ④同治帝〕 に拒否されていた。外国使節の北京常駐の実現は、まさにその時以来の懸案の解決と言えた。

一方で、清朝ではいまだ対外関係を朝貢や互市としてとらえる見方が根強かったため、自ら積極的に諸外国に在外公館を設置する動きは生じづらかった。このような清朝がようやく各国への在外公館設置へ踏み切った要因として次の二つが指摘されている。

一つは、清朝が中南米における中国人労働者クーリー（苦力）の保護の必要性を認識するようになったことである。フランス革命にも影響を受けつつ展開した (5) 〔①ハイチ革命 ②メキシコ革命 ③ドンズー運動 ④ウラービー運動〕 は黒人奴隷解放の先駆となり、以後、奴隷制度に対する国際的な非難が強まっていく。そうした状況の中で、黒人奴隷の労働力の代替となったのがクーリーであった。だが、クーリーたちは本人の意思とは関係なく暴力的に現地に送られた者が少なくなく、労働環境も劣悪であった。とりわけ19世紀後半には、スペイン領 (6) 〔①ブラジル ②ガイアナ ③スリナム ④キューバ〕、そしてペルーでのクーリーの惨状を清朝も注視し、調査を開始したのである。

もう一つの要因は、日本の台頭を引き金として、清朝内で王朝の防衛に関する論議がおこったことである。1874年に (7) 〔①甲午農民戦争 ②台湾出兵 ③壬午軍

乱 ④戊辰戦争]がおこると、のちの日清戦争の講和条約である(8)〔①ポーツマス条約 ②望厦条約 ③辛丑和約 ④下関条約〕で清朝全権も務めることとなる李鴻章は、日本を念頭に置いた海防の重要性や西洋諸国との連携の必要性を説き、その一環で在外公館設置の方針が提示された。これに対し、(9)〔①曾国藩 ②劉永福 ③左宗棠 ④袁世凱〕は、新疆など内陸の辺境防衛を主張した。(9)は、ロシアがイスラーム教徒の反乱を契機に新疆の(10)〔①ラサ ②イリ ③キャフタ ④ネルチンスク〕を占領した(10)事件にかかわった人物として知られる。

以上のような状況下、清朝がイギリス外交官殺害事件の謝罪を目的として派遣した使節が、初代駐英公使としてイギリスに駐在したのを皮切りに、世界各地に清朝の在外公館が設置されていった。この時期派遣された駐米公使は、前述のスペイン領(6)やペルーにおけるクーリー保護を念頭に、駐スペイン・ペルー公使を兼任した。

なお、こうした在外公館のスタッフは、現地で外交事務にあたるとともに、現地の政治、経済、文化などの観察記録を残している。例えば、前述の初代駐英公使が書いた日記には、ヴィクトリア女王統治下で展開された、グラッドストン率いる自由党と(11)〔①ジョゼフ＝チェンバレン ②ロイド＝ジョージ ③マクドナルド ④ディズレーリ〕率いる保守党による議会政党政治の描写などを目にすることができる。

そして在外公館設置から時がたつにつれ、現地で職務経験をつんだスタッフの中から、近代的な外交観と実務能力を身につけた人材が輩出するようになる。1919年、(12)〔①ロンドン ②ジュネーヴ ③ローマ ④パリ〕で開催された第一次世界大戦の講和会議に中国の代表団として参加した人員の中には、そのような経歴を持つ人材が含まれていた。

Ⅳ 以下の各文章1～6にはそれぞれ明白な誤りが一つずつ含まれている。誤りの語句を解答用紙所定のA欄に、それに代わるべき正しい語句をB欄に記入しなさい。また各文章1～6に付された設問(1)～(6)の答えを解答用紙所定の欄に記入しなさい。〔解答用紙記述〕(24点)

1. 東晋とそれに続く南朝は、現在の南京にあたる建康に都を構え、貴族文化が栄えた。中国北方から移住してきた貴族たちは多くが首都近辺に住んだが、なかには会稽など江南の伝統ある地に住む者もいた。例えば淝水の戦いの功労者を祖父に持つ名門貴族の出身である謝靈運は、この地で農地開発につとめ、大莊園を經營し、当地の美しい山水を題材に優れた詩文をのこした。一方、彼と同時期に同じく山水の美しさをうたう詩作を行ったのが陶淵明であるが、彼は江南豪族の流れをくむ没落貴族の出身であるという点では対照的であった。彼らの作品は、宋の武帝の皇太子である昭明太子が編纂した『文選』にも収められている。

設問(1) 南北朝時代を特徴付ける文体として、対句や押韻を多用する華麗な文体が挙げられる。この文体を何と言うか、漢字五文字で答えなさい。

2. 儒教が国家を支える思想として定着した後漢時代では、儒教の主要な經典として五經が重視されており、經義の統一をはかる會議が開催されたり、太学の門外に石經を立てて經典のテキストを天下に示したりした。さらに經典の正確な理解を行う必要上から、字句解釈を重んじる訓詁学が発展した。なかでも馬融やその弟子で党錮の禁にも遭った董仲舒は、經典を統合的に理解しようとし、多くの注釈を作成したことで有名である。こうした背景には、蔡倫が製紙法を改良したことによって、竹簡とともに紙が書写材料として普及するようになり、多くのテキストに精通することが可能になったことの影響があるとする説もある。

設問(2) 中国の製紙法は、751年に唐とイスラーム勢力が中央アジアで戦った際に捕虜となった者の中に紙漉工かみすきこうが含まれていたことをきっかけに、西アジア・ヨーロッパ方面へ伝播したと言われる。この戦いの名称を答えなさい。

3. 宋代を代表する思想家である南宋の朱熹は、科挙に合格後、各地の地方官を担当するも、生涯の多くは地元の福建にて教育・研究に従事した。晩年には侍講として中央に出仕するも、政争に巻き込まれ、「慶元偽学の禁」という弾圧を受けることとなった。朱熹の思想の最大の特徴は、北宋の周敦頤を祖として宋学と呼ばれる学問を大成したことである。朱熹の代表作『四書章句集注』は、このような学問的見地から、四書と総称される『論語』『大学』『中庸』『書経』を重視し、それらに注釈をほどこしたものであった。彼が先人の説を継承しつつ示した、理と気という概念に基づく人の心に関する議論や、居敬・窮理といった方法論は、後世中国のみならず、朝鮮や日本、ベトナムなどアジア諸地域にも大きな思想的影響を及ぼした。

設問(3) 朱熹の論争相手として知られる南宋の思想家で、心即理説を唱え、明代の陽明学の誕生にも影響を与えたとされる人物は誰か、答えなさい。

4. 17世紀以降、オランダ、イギリスやフランスなどの諸国は、西アフリカに銃や綿織物を運び、そこで黒人奴隷を積み込んでカリブ海地域や南北アメリカに渡り、砂糖やタバコを手に入れてヨーロッパに持ち帰るという三角貿易を行った。イギリスでは、王政復古を果たしたチャールズ2世の設立した王立会社が貿易を一時独占したが、17世紀末に自由化され、ロンドンの他、ブリストルとマンチェスターが主要な奴隷貿易港となった。18世紀には、スペイン継承戦争の講和として結ばれたユトレヒト条約によってスペイン領アメリカへの奴隷貿易の独占権を獲得し、莫大な利益を得た。さらに、北アメリカ南部の綿花プランテーションが奴隷の輸出先に加わると、ホイットニーによる綿繰り機の発明と相俟って、原料供給の面でイギリス本国の産業革命を支えるものとなった。

設問(4) オランダでは2022年に首相が、2023年に国王が、過去の奴隷貿易について公式の謝罪を行った。1621年に設立され、オランダでアフリカ西岸と南北アメリカの交易を独占した会社の名称を答えなさい。

5. イスラム世界では、アッバース朝の時代からトルコ系やチェルケス系などの奴隷軍人が重用された。こうした奴隷軍人はマムルークと呼ばれ、セルジューク朝やアイユーブ朝の時代に活躍した。14世紀には彼らが実権を握ってエジプト、シリアを統治し、メッカとメディナの両聖都に支配を及ぼす王朝が建てられた。この王朝の首都カイロでは学問が栄え、シーア派の中心地となった。またこの都市は、カーリミー商人が香辛料貿易などに従事する商業の拠点となった。

設問(5) 14世紀に『世界史序説』を著し、イスラム世界の王朝交替を説明する歴史論を展開した歴史家の名を答えなさい。

6. 16世紀頃から、オスマン帝国ではトルコ系騎兵の勢力がしだいに衰え、それに代わってシパーヒーと呼ばれる歩兵軍団が重要性を増していった。この歩兵軍団は、デヴシルメによって徴募された奴隷たちで編成されていた。こうした軍事制度の変化にともなって、騎兵への俸給支払いを目的とするティマール制がしだいに崩れ、17世紀以降は徴税請負制が広まっていった。この制度が広まった地域周辺では富と権力の集中が進み、アーヤーンと呼ばれる地方有力者が台頭した。

設問(6) 16世紀に在位して帝国の諸制度を整備し、国外ではハンガリーを征服して第一次ウィーン包囲をおこなったオスマン帝国最盛期のスルタンの名を答えなさい。

V 次の文章は、佐藤靖『科学技術の現代史——システム、リスク、イノベーション』を一部抜粋したものである（中略した箇所を「……」で示す）。この文章を読んで、下記の設問(1)～(12)に答えなさい。〔解答用紙記述〕（24点）

1960年代の米国では宇宙開発⁽¹⁾をはじめ科学技術に巨費が投じられたが、同じ頃、科学技術への懐疑も広がり始めていた。その動きは、1960年代末から70年代初めにかけて米国社会で大きな流れになり、冷戦型科学技術の質的な変化を促していく。

多くの米国人はこの時期、科学技術が環境への脅威となり得ることを意識し始めた。1962年、生物学者レイチェル＝カーソンは『 (2) 』を著し、農薬などの化学物質による生態系への悪影響を告発したが、それをきっかけに環境運動が拡大していく。1970年には国家環境政策法が制定されて環境保護庁が発足、その頃から環境規制が強化された。さらに1972年には国連人間環境会議（ストックホルム会議）が開かれ、ローマクラブが報告書「 (3) 」のなかで地球の有限性を強調している。

科学技術への懐疑の声は、ベトナム戦争⁽⁴⁾が1960年代後半以降泥沼化するなか、反戦運動を通じて若者や女性を中心に広がった。ナパーム弾や枯葉剤の使用がベトナムの民間人を苦しめたことが知れわたり、科学技術には負の側面があることが実感されたのである。大学でも科学技術の軍事利用に対する抗議の声が高まった。〔……〕

そもそも、1960年代末になると米国が宇宙開発や核軍拡を全力で進める必要性が弱まった。1969年に大統領に就任したリチャード＝ニクソン⁽⁵⁾が (6) （東西冷戦の緊張緩和）の流れを明確にしたからである。

ニクソンは大統領就任後間もなく、アジア地域での米国の役割を縮小し、アジア諸国自身の手には安全保障を委ねていくという、いわゆる「ニクソン＝ドクトリン」⁽⁷⁾を発表している。世界のなかでの米国の軍事的・経済的地位が相対的に低下するなか、米国がそれまでの世界戦略を維持することはもはや難しくなっていた。ニクソンはソ連との軍縮交渉⁽⁸⁾に乗り出し、中国との国交正常化⁽⁹⁾に踏み切り、ベトナムから撤退する。そのようにして冷戦の緊張が緩むことで、軍事科学技術や宇宙開発を連邦政府が強力に後押しする必要性は失われていった。〔……〕

非軍事の巨大科学技術も1970年代に入って明らかに転機を迎えた。NASAは
〔10〕 計画の成果を踏まえて宇宙開発をさらに拡大していく構想を立てるが、
ニクソンはそれを認めなかった。NASAの予算は、〔10〕 計画関連の予算が膨らんだ
1966年をピークにその後5年間で約4割減少する。NASAは1972年にスペース
シャトル計画開始の承認をとりつけるが、その後も恒常的な予算不足に悩まされて
スケジュールは大幅に遅れ、ようやく1981年にその初打ち上げに漕ぎつける。
〔……〕

米国連邦政府は1970年代、エネルギー開発にも力を入れた。米国では1960年代末
からエネルギー需要が急増し、大気汚染などの環境問題が社会的に注目を集めてい
たこともあって、ニクソン大統領は1971年、エネルギーの研究開発への公的投資の
拡大を表明する。さらに、1973年に第一次石油ショック⁽¹¹⁾が起きるとニクソンは80年
までにエネルギー供給の自立を達成するという野心的な目標を掲げ、核融合開発や
太陽光、風力、地熱などのエネルギー開発の予算を急増させた。〔……〕

環境問題に配慮しつつエネルギーを確保するという社会的要請に応えるため、米
国のエネルギー研究開発予算は1974年から8年間で約5倍に拡大した。ただ、その
流れは〔12〕 大統領就任とともに止まる。これは、同時期に日本で始まった新
エネルギー技術開発「サンシャイン計画」(1974年～)や省エネルギー技術開発
「ムーンライト計画」(1978年～)が長期的に継続され成果を残したのとは対照的で
ある。米国の科学技術政策が政治を敏感に反映した一つの事例だろう。

〔設問〕

- (1) 下線部(1)に関連して、ソ連が1957年に打ち上げに成功した世界初の人工衛星の
名を答えなさい。
- (2) 空欄〔2〕には、農薬による食物汚染や人体への害を論じたカーソンの著
書の題名が入る。この書物の題名を答えなさい。

- (3) 空欄 には、ローマクラブが1972年に発表し、地球の資源は有限であり将来の人口増加と経済成長を支えることができないと警告した報告書の題名が入る。その題名を答えなさい。
- (4) 下線部(4)に関連して、ベトナムの独立運動を指揮し、ベトナム民主共和国の初代国家主席となった人物の名を答えなさい。
- (5) 下線部(5)の人物は、1960年の大統領選挙では民主党の候補者に敗れている。1960年の選挙で勝利し、大統領在任中に暗殺された人物の名を答えなさい。
- (6) 空欄 に入る適切な言葉をカタカナ4文字で答えなさい。
- (7) 下線部(7)の発表に先立つ1967年、アジアではインドネシア、マレーシア、タイなど5ヶ国による地域協力機構が設立された。この機構の名称を9文字で答えなさい。
- (8) 下線部(8)に関連して、ニクソン政権とソ連とのあいだで大陸間弾道弾と潜水艦発射型弾道ミサイルの数量に上限を設ける交渉が行われた。この交渉の名称を漢字6文字で答えなさい。
- (9) 下線部(9)について、正式に国交正常化が行われたのは1979年のことであり、ニクソンは1972年に訪中して両国関係の改善への道筋をつけた。この訪中の際にニクソンと会談した中国の最高指導者の名を答えなさい。
- (10) 空欄 には、人類による月面着陸をめざした計画の名称が入る。この計画の名をカタカナで答えなさい。

(11) 下線部(11)の引き金となったのは、アラブ諸国の産油国間の相互協力機構による原油輸出停止措置であった。この相互協力機構の名称をアルファベット5文字で答えなさい。

(12) 空欄

(12)

 には、「強いアメリカ」を掲げてソ連に対して強硬な姿勢をとったが、在任期間の後半では対話路線に転換した大統領の名が入る。この大統領の名を答えなさい。